

第1学年4組 英語科学習指導案

平成27年2月3日(火) 第5校時 和
授業者 本間 美術

こんな生徒たちを

- ・会話練習で自分のことを伝えるとき、単語だけでなく文で答えられるようになってきた。
- ・「ペラペラ大作戦」での反復練習を通し、例文から自分の思いを伝える表現に変えていこうと意識している。
- ・ペア活動を通して、友だちのよい表現を真似したり、会話の進め方を友だちにアドバイスできている。

伝えたい! わたしたちの中部中を!

～(Unit10 観光地から)～ (全6時間)

- (1) can を用いた文(肯定文・否定文)を使い、できることとできないことについて英語で伝えようとする。
小学生に英語を教えることで、学ぶ意欲をもたす。 【関心・意欲・態度】
- (2) can を使い、自分・相手・第三者のことを書いたり、話したりすることができる。 【外国語表現の能力】
- (3) can を用いた英文(肯定文・否定文・疑問文)を理解することができる。 【外国語理解の能力】
- (4) can の形・意味・用法と応答の仕方を理解する。
スポーツの形態の違いにより動詞の使い分けができる。 【言語・文化の知識・理解】

こんな生徒たちに

- ・会話練習を通して、自分のことを1文加えて話そうとする
- ・「ペラペラ大作戦」では、積極的に自分のことを表現できる
- ・友だちのよい表現を真似したり、自分の知っていることを率先してアドバイスできる

教材・課題とのつながり

①先輩として小学生と英語の授業を楽しむ

「それ小学校でやったよ」と、口にする生徒たち。英語に対する抵抗感は少なく、学んだ英語を使い意欲的に活動することができる。これまで、英語の学びを実践する場面設定を、クラスから学年の生徒、学校の先生と、身近な相手で関わりをもたせてきた。その過程で、生徒たちは互いに良い表現を真似し、アドバイスし合い、英語で会話をする楽しさを実感している。

本校では、年間行事を通して小学校と連携を図っている。その一つである部活動体験日が近づくにつれて、先輩としての意識をもちはじめている生徒たち。生徒たちは、これまで身につけた英語を自己表現しようとする意欲やアドバイスをいかけせる場面設定はないかと考え、今回、小学6年生と交流し部活動を英語で紹介する。小学生にこれまで学んだことを生かして教えるという刺激を与え、さらに英語を学ぶことに対する意識付けとなることを期待したい。

②「できること」を伝えたい

一般動詞を学び、英語で話せる内容が増えたことで会話の幅が広がったことを実感した生徒たち。友だちと会話をする中で、「○○をする・しないではなく、できる・できないってどう言えばいいの?」と疑問がでてきた。そこで can を使って伝えることができることを学習する。さらに会話の幅を広げさせたい。

③ターゲットセンテンス(基本文)を使いこなすためのペラペラ大作戦(反復練習)

「ペラペラ大作戦」を通して「英語のポイント」の反復練習を行い、生徒たちの耳や口を使って音として体得させる。本単元では、「ペラペラ大作戦」で助動詞 can と疑問詞を扱う。例文通りの練習から、例文を用いて自分の思いを伝え合う場面を設定し、反復練習の中で自己表現できるように促していく。

自分のできることとできないことってどうやって伝えたいのかな ① (ペラペラ大作戦 12-1 実施)

I play tennis. I can play tennis well. ・できることを伝えるには can を使えばいいんだね。
But I can't play soccer. *can を使ってたくさんできることを話せるようにしたい。

友だちにもできることをたくさん聞きたいな ②③ (ペラペラ大作戦 12-2,3 実施)

S1: I can play tennis. Can you play tennis?
S2: Yes, I can. I can play tennis.
But I can't play soccer.
S1: I can play soccer, too. It's interesting.

小学生とたくさん会話をしたいな ④(本時 4/6)

JH: Hi, I'm A
ES: Hi, I'm B.
JH: Can you play tennis?
ES: Yes. Can you play tennis?
JH: Yes, I can. I'm a member of the tennis team.
A can swim. But I can't swim.

もっと中部中のことを知ってもらおう ⑤⑥ (ペラペラ大作戦 12-4 実施)

S1: I can play tennis. I'm a member of the tennis team.
What sport can you play?
S2: I can play soccer. I play soccer on Sundays.
S1: I can play soccer, too.

・ペラペラで特訓しなせよ。
*しっかりと覚えて、小学生に教えてあげよう。
・小学生にわたしたちから声をかけていこう。
・小学生との会話では Good! と褒めてあげよう。
・Can you? を使ってたくさん小学生と話しをしよう。
・自分のことを、1文加えて話すことができた!
*今まで学んだ英語を使って、自分のことを詳しく伝えよう。

1 [at the class]
S1: Where can you read a book?
S2: I can show you. Let's go!
[at the library]
S: This is a library. You can read a book here.

2 [at the class]
T: When can you eat lunch?
S: We can eat lunch at 12:50

・疑問詞はここで使えるんだね。
・ペラペラで答え方の確認をしよう。
*これまで習った英語を使ってもっと会話ができるようになりたい!
・学校生活の様子をビデオレターで紹介したら、入学が待ち遠しくなってくれるかな。
・一緒に学んだ can を使って紹介しよう。
・ジェスチャーも使えば、内容がわかりやすいし can に気づいてくれるかな。
・疑問詞を使うと、いろいろな内容を質問できるね。
*疑問詞も使って、自分から英語で会話の内容を広げてみたい!

人とのつながり

①小学生が英語でかかわり合いたいくなるための工夫

Who am I? を ALT 指導のもと導入する。単語を確認する場面では、中学生が率先して声を出す姿を見せ、小学生を練習の世界に引き込ませる。また活動する場面では、中学生が「Can you?」「Are you?」と質問し、小学生は Yes, No. で答えていく。小学生が答えられないときは、ジェスチャーを使ってわかりやすく教える。

「Can you?」のインタビューでは、中学生から「Hi, I'm A」と声をかけ、中学生が率先して会話のきっかけを作っていく。お互いの「できること」を聞き合い、会話後に名刺を交換する。名刺には、中部中の部活動をイラストと英単語で表にしてあり、あらかじめ「できること」に○をつけておく。この活動でも小学生がわからないときは、ジェスチャーを使ってアドバイスすることを心がけ、生徒同士に学び合う機会を多く与えたい。

②会話の内容、流れを大切にさせる

小学生にアドバイスした後、「Good!」と褒めてあげる。対話の後には「Thank you」など、小学生に分かる言葉を加えて答えることで、和やかな雰囲気を与えるだけでなく英語での授業が流れていくことに気づかせる。

自己とのつながり

①学んだ表現を自分の表現に変えて

毎回、次回の目標をもたせて反復練習することで、前時よりも「たくさん話す」「正しく表現する」ことを意識させる。

ペアでの会話練習から、自分のことをできるだけ多く伝える場面を設定する。常に、会話の内容に合った1文を付け加えて自分を表現できるように、ペアを代えて練習する。小学生との活動で、1文加えて自分の思いを伝えることができれば、自己評価ができる。それらの過程で、学び合う喜びを味わわせるだけでなく客観的に自己の成長を感じさせたい。

本時の指導（4／6時）

（1）本時の目標

- ・助動詞 can の意味・用法を理解し、質問や応答が適切にできる。
- ・たくさんの英語を使って、自分のことを小学生に伝えようとする。

（2）準備

- ・絵カード、名刺

（3）学習過程

学習の流れ ・ 予想される生徒の反応	◇指導上の留意点 ○評価
<p>1 David 先生と、Who am I?ゲームで使う単語を確認する。 ・積極的に声を出して、小学生をリードしたいな。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>David: Repeat after me. rabbit, rabbit ... Are you a rabbit? St: rabbit, rabbit...Are you a rabbit? David: Good!</p> </div> <p>2 中学生が、小学生との問答で、絵カードを当てる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>JH: Can you jump? ES: Yes. JH: Can you run? ES: No. JH: Can you swim? ES: Yes. JH: Are you a dolphin? ES: Yes!!</p> </div>	<p>◇この後の活動を円滑に行うため、練習で Can you～? と Are you～? の用法に慣れさせる。（教材・課題とのつながり）</p> <p>◇中学生の質問に小学生が答えられないときは、ジェスチャーを使って表現させる。（人とのつながり）</p> <p>○Can you ～? と Are you～? を適切に使いわけることができたか。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">小学生とたくさん会話をしたいな</div>	
<p>3 相手のできることを Can you～?を使って質問しあう。 ・“Can you～?”を使ってたくさん聞こう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>JH: Hi, I'm A ES: Hi, I'm B. JH: Nice to meet you. Can you play tennis? ES: Yes. Can you play tennis? JH: Yes, I can. I'm a member of the tennis team. Thank you.</p> </div> <p>4 インタビューしてわかったことを発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A can swim. But I can't swim.</p> </div> <p>・自分のこと、相手のことを can を使って発表できた。</p> <p>5 本時の感想を発表する。 ・自分の英語が小学生に伝わってよかった。 ・もっと中学校のことを教えてあげたいな。</p>	<p>◇できるだけ多くの子と会話をし、相手の「できること」や「できないこと」を知ることができるように、中学生から声をかけていけるように支援する。（人とのつながり）</p> <p>◇これまで学んだことを生かすため、対話の中で1文を加えて話させる。（自己とのつながり）</p> <p>○can を正しく使うことができたか。</p> <p>○自分のことを、できるだけ多くの言葉を使って伝えようとしたか。</p> <p>◇自分の思いを伝えるため、相手のことを発表するときに、その内容を自分のことに置き換え、can を使って1文加えさせる。（自己とのつながり）</p>

（4）評価

- ・助動詞 can を用いて、質問や応答が適切にできたか。 （会話練習より）
- ・小学生にできることを聞き、自分のできることを伝えようとしたか。 （活動の様子より）